

コミュニティ・スクールが始まります!

急速な少子高齢化や都市化、人間関係の希薄化などにより、地域コミュニティの構造が大きな変化を迎えております。そのような中、本市では、子どもたちの成長を支え、よりよい地域社会の構築に寄与するため、学校・家庭・地域が目標やビジョンを共有し連携・協働する「コミュニティ・スクール(※)」の導入準備を進めてまいりました。今年度から7校において、コミュニティ・スクールがいよいよスタートします。(※コミュニティ・スクールとは学校運営協議会を設置した学校のことです。)

本市ではこれまでスクールサポートネットワーク(地域学校協働本部)をはじめとして、地域の教育力を生かした教育活動を充実させてまいりましたが、今後も地域総掛かりで子どもたちをはぐむためには、学校と地域がパートナーとして連携することが必要不可欠です。そこで、学校地域連携コーディネーターがパイプ役となって学校運営協議会とスクールサポートネットワーク等との連携を深め、それぞれが持つ役割を十分に機能させて、効果的で質の高い教育活動を展開してまいります。



コミュニティ・スクール導入校
 ・大久保東小学校 ・片柳小学校
 ・見沼小学校 ・東岩槻小学校
 ・与野西中学校 ・桜山中学校
 ・浦和南高等学校

2020年度以降、順次拡大し、
 2022年度までに市立学校全校で本格実施する予定です。

「第2期さいたま市教育振興基本計画」を策定しました

平成31年3月、教育に関する施策を総合的・体系的に進めていくことを目的として、「第2期さいたま市教育振興基本計画」を策定しました。計画期間は、2019年度から2028年度までの10年間です。この計画に基づき、本市では、22世紀の未来を見据えた教育施策を展開していきます。

■ 計画策定に向けた基礎資料 (教育についてのアンケート調査)

「子どもの成長や学び、生活に支える環境」に関するアンケート調査結果を基に、教育の役割や課題を整理しました。

■ 計画策定に向けた視点 (2030年以降の社会を展望した教育の役割)

「人間関係を築く能力」「問題解決能力」「根気強さ」がもつとも重要であると考えていることが分かるなど、貴重な基礎資料を得ることができました。

計画の策定に向けて、平成29年度には児童生徒・保護者・校長・教職員合計約3,800名からのアンケート調査を実施しました。調査結果からは、これからの変化の激しい社会を生き抜くためには、「人間関係を築く能力」「問題解決能力」「根気強さ」がもつとも重要であると考えていることが分かるなど、貴重な基礎資料を得ることができました。また、2030年以降の社会を展望した教育の役割として、「教育活動を通じた社会の活力の維持・向上」、「人間ならではの感性、創造力の発揮」が重要であるという視点も取り入れ、本市の教育が目指す人間像を設定しました。

本市の教育が目指す人間像

世界と向き合い 未来の創り手として 輝き続ける人

- グローバル化、情報化など予測が困難な未来に対応し、多くの情報の中から何が必要かを主体的に判断し、自ら立てた課題の解決を目指し他者と協働しながら最善の解を見付け、新たな価値を創造することができる人
- 多様な人々との関わりの中で共感し、人間ならではの感性、創造性を発揮しつつ、自らの可能性を高めながら、おもしろい人生、おもしろい社会を創り出していくことができる人
- 生涯にわたって質の高い学びを重ね、夢と志を持ち、生きがいを見付け、健康で幸せに暮らすことができる人

これは、本市に生きる一人ひとりが、学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを実感し、自らの能力を高め発揮しながら、豊かに生き、自分らしい輝きを放ち続ける姿そのものを表現したものです。

第2期さいたま市教育振興基本計画の基本理念

「人生100年時代を豊かに生きる『未来を拓くさいたま教育』の推進」

- 【基本的方向性1】 12年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成
- 【基本的方向性2】 グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかなるの育成
- 【基本的方向性3】 人生100年時代を輝き続ける力の育成
- 【基本的方向性4】 スクール・コミュニティによる連携・協働の充実
- 【基本的方向性5】 『未来を拓くさいたま教育』推進のための基礎整備 ※

「さいたま市教育アクションプラン」の重点事項

「未来を拓くさいたま教育」を推進する『PLAN THE NEXT 3つのGで 日本一の教育都市へ』

一人ひとりの成長を支え、社会が輝ける力を育成すること

具体的な事業・取組を掲載する「さいたま市教育アクションプラン」の重点事項として、「『未来を拓くさいたま教育』を推進する『PLAN THE NEXT 3つのGで 日本一の教育都市へ』」という考えを掲げました。本市に生きる一人ひとりが、自らの能力を高め発揮しながら、夢や希望、生きがいをもって人生100年時代を豊かに生きる姿の実現を図るため、計画で掲げた様々な施策を通じ、教育のちからで新しい時代を拓いていきます。

「自分発見!」チャレンジupさいたまを開始

～ボランティア活動を行う子どもたちを表彰します～

チャレンジさいたま

体験活動

- ・自然体験
- ・勤労体験
- ・世代間交流活動など

チャレンジupさいたま

ボランティア活動

- ・社会奉仕
- ・環境美化
- ・各種イベントの補助など

市教育委員会では、青少年の主体的な社会参画を応援するため、従来体験活動の支援のために行われてきた『「自分発見!」チャレンジさいたま』にボランティア活動を加え、『「自分発見!」チャレンジupさいたま』事業として実施することとします。

新事業では、対象年齢を18歳まで拡大するとともに、ボランティア活動を20時間以上行った青少年に「ブロンズ賞」、50時間以上行った青少年に「シルバー賞」、100時間以上行った青少年に「ゴールド賞」として、賞状とピンバッジを贈呈します。

教育長室の窓から

私は「教育のちから」が「新しい時代を拓く」と信じております。我が国が目覚ましい成長を遂げてきたのも、我が国ならではの「教育のちから」によるところが大きいと考えております。また、本市が我が国トップクラスの教育を確立してこられたのも同様です。

新しい時代の扉が間もなく開かれようとしている平成最後の年に、22世紀の未来を見据え、「第2期さいたま市教育振興基本計画」を策定しました。本計画のもとでのスタートとなる令和元年、日本一の教育都市の実現に向けて、本市ならではの「教育のちから」を生かした施策を自信を持って展開し、未来社会に活躍する全ての子どもたちへ、そして全ての市民の皆様へ、「さいたま市の未来は教育が担う」という気概を持ち、教育委員会一丸となって先進的で質の高い教育、学びを提供してまいりたいと考えております。本年度もどうぞよろしく願いたします。

編集後記

この春、美園北小学校、美園南中学校、大宮国際中等教育学校が開校し、小学校104校、中学校58校、高等学校4校、中等教育学校1校、特別支援学校2校において、新年度の教育活動が始まりました。本年度も定期的に教育委員会の今を伝える情報を発信してまいります。【第8号編集担当】 管理部教育政策室 048-829-1626